

## 第 7 回

# シーニックバイウェイ北海道推進協議会

## 会 議 録

日 時：平成22年5月17日（月）午後2時30分開会  
場 所：札幌第1合同庁舎 2階 講堂

## 1. 開 会

○推進協議会（事務局） それでは、定刻となりましたので、ただいまから第7回シーニックバイウェイ北海道推進協議会を開催させていただきます。議事に入るまでの進行を務めさせていただきます。

## 2. 開会あいさつ

○推進協議会（事務局） では、早速ではございますけれども、当推進協議会の会長よりごあいさつをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○推進協議会（会長）

皆様、お忙しいところをご出席いただきまして、ありがとうございます。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会を開催するわけでございますけれども、毎年、この会合をやって、次々と指定をして、大分増えてまいりました。それと同時に、これまで指定したところがどういう活動をしているのか、そのレビューが必要な時期にも入っていると思います。我々が非常に誇りにしていいと思いますのは、このシーニックバイウェイの運動は、全国でも北海道が先駆けて始めたわけでございます。国土交通省、本省に行きますと、これは道路局の事業だそうでございますけれども、制度的にはシーニックバイウェイという名前ではなくて、たしか、風景街道と言いましたか、何か別の名前で作っているのですけれども、北海道は引き続きシーニックバイウェイという名前を使っているわけです。これは、いろいろな意味で非常に新しい、おもしろい企てであります。何よりも、地域の人々の自発的な動きを官が応援するという事です。官が主導して地域を動かすというのではなくて、むしろ地域を応援するのだというところがすばらしいなと思います。

それから、それが地域づくりと関連づけられているということであります。単に景観をきれいにするというだけではなくて、地域づくりの一環としてそれが取り上げられているということだと思います。

もう一つは、最近、観光立国日本というように、国の政策としても観光業を非常に重視し始めておりますけれども、よくよく考えてみますと、北海道も食と観光で生きていくわけでありますから、これこそ私どもが大事にしなければならない観光の重要な一つの手段であると考えております。

考えてみますと、観光とは、普通は、道外からお客さんを大勢連れてくる、海外から連れてくる、最近では中国の方も関心を持っているようなので、これまでの台湾、韓国、香港に加えて中国本土からのお客さんを大勢呼んでくる、この呼んでくるというところに非常に大きな行政の重点があるようにうかがわれますけれども、実は、呼んでくることと同時に、来ていただいた方に喜んでいただかなければなりません。そして、喜んでいただくためには、地元の人々が歓迎しなければいけない、地元の風景がきれいでなくてはならない、こういうふうに思うわけでございます。

地元の歓迎という面でも、シーニックバイウェイの各地区の運動というのは非常に重要

な意味があると思います。ここには、それぞれお立場が違ういろいろな分野の方がいらっしゃいますけれども、今日は、それぞれの思いをシーニックバイウェイというテーマに結びつけてご発言いただければと思います。

そして、今日の発言が協議会にとってもプラスになりますように、そして、出席した皆様にとっても収穫が多い、いい会議だったということにしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。冒頭のごあいさつといたします。

どうもありがとうございました。

○推進協議会（事務局） 会長、どうもありがとうございました。

それでは、議事に入る前に、構成員の皆様方の紹介でございますけれども、推進協議会の資料の中に名簿がございますので、その名簿によってご紹介にかえさせていただきたいと思います。

続きまして、資料の確認でございます。資料は、A4判の綴じてあるものが大きく三つございます。一番上が第7回シーニックバイウェイ北海道推進協議会、次が、右肩に資料1-2（別冊）として綴じてあるもの、三つ目が資料7でございます。このほかに、「ちよっと暮らし」という小冊子と「Byway」の2010年の第3巻を机の上に載せさせていただいております。よろしく願いいたします。

それでは、これより議事に入らせていただきたいと思います。

議事の進行を会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

### 3. 議 事

○推進協議会（会長） それでは、議事に入ります。

まず、（1）シーニックバイウェイルートの新規指定について、資料1-1と1-2と1-3がございますが、これについて説明をお願いいたします。

○推進協議会（事務局） 本編の資料の5ページ目、色刷りの北海道地図のページをお開きください。

今回のシーニックバイウェイの提案につきましては、地図の赤く縁取りをしておりますトカプチ雄大空間から提案をいただいております。

トカプチ雄大空間は、候補ルートとしてこれまで2年間の活動を経まして、今回、晴れて指定ルートとしての提案をいただいております。なお、今回の提案は、全道でいきますと9番目、十勝管内としては2番目の指定を目指す提案の中身になっております。

では、引き続き、この提案をいただきましたトカプチ雄大空間の代表がいらっしゃっておりますので、説明をお願いいたします。

○トカプチ雄大空間（代表） それでは、これから十勝シーニックバイウェイ、トカプチ雄大空間のご説明を簡潔にさせていただきたいと思います。

まず、お手元の資料1-2（別冊）の4ページの中ほどをご覧ください。

トカプチ雄大空間、我々は、「『食』と『癒し』で大地をつなぐ」がキャッチフレーズ

の十勝シーニックバイウェイの中で強く連携しながら、我がトカプチ雄大空間では、特に十勝人のルーツ、十勝のスイーツをセールスポイントにしております。この中で、あえて十勝人のルーツとして人を取り上げていることからおわかりいただけるとおり、運営活動計画の3ページ並びに10ページになりますが、そのルートストーリーにありますように、我々は、人を前面に出し、十勝の人自体が魅力であるというふうに考えております。また、その人が織りなす歴史や営みも魅力であるというふうに考えております。そして、観光、環境、健康、この三つの「K」を「癒し」というキーワードで連携させます。

観光では、少し戻りまして、運営活動計画の9ページにありますように、人が魅力のシーニックカフェや観光施設を結んだ観光モデルコースを、シーニックカフェスタンプラリーやトカプチスタンプラリー、そして、シーニックめぐり券で周遊しながら十勝の素晴らしい資源を楽しんでいただき、そして、環境では、環境モデル都市帯広を中心に、イエローリボンプロジェクト、これは、ひまわりの種を市民活動の中で道路沿いに蒔いていただき、景観を美しくするとともに、この十勝を漢字の「十」の字で、空から見たときに黄色いじゅうたんでつないでいるようにしていこうという活動を通じて、とれた種から絞った油を使って料理をしていただき、使い終わった油を再生して、BDFの燃料を使って発電や公共交通のバスなどの運行に資して、環境の循環、資源の循環を体験していただくというふうに考えております。そして、健康では、トカプチ雄大空間の売りである十勝スイーツに代表される、そして、十勝シーニックバイウェイのキャッチフレーズでもある安全・安心で新鮮な食材をふんだんに使った食、また、世界に二つとない十勝川温泉のモール泉による温泉浴や森林浴、そして、国内ではいち早くPETを取り入れた高度医療、それと何ととっても十勝の本物の大自然、これらで心身ともに健康になっていただき、これらを連携させたクオリティーの高い癒しの体験を通じてクオリティー・オブ・ライフを実現させようと考えています。

さらに、人が魅力でありますので、その魅力ある人によって、先人たちが切り開いてきた歴史の中で得た知恵や経験が織り込まれているこの癒しの地の暮らしぶり、生活ぶりをお伝えしていきます。その暮らしぶりや生活ぶりをお伝えしていく方々をライフコンシェルジェと名付けて、その活動を市民活動にまで浸透させながら、そのライフコンシェルジェの育成にも力を入れていく考えであります。また、その活動は、今後大きな活動を担うであろう女性の視点で組織した女性プロジェクトという組織の中に位置させて動かしていこうというふうに考えております。やはり、女性の強みである心の優しさを十分に活かしていきたいというふうに考えているからであります。

また、我がトカプチ雄大空間のもう一つの特徴は、そのルートの理念であります。

運営活動計画書の11ページをご覧ください。

この11ページの活動理念図にありますように、我々は、持続可能な成長、発展を成し得る活動をするために、まずは経済活動から始めて、ボランティア活動、連携（人づくり）、活性化、そして経済活動（まちづくり）に循環で戻って、さらに循環を回してボランティ

ア活動、連携、活性化という循環を意図的に行っていこうというふうに考えております。

さらには、その循環活動をらせん状にレベルアップさせていく中で、短期的には交流人口の増加、中期的にはさらなる交流人口及び長期滞在人口を増加させて、最終的には長期的にそれらの人口増と相まって十勝型産業の創出を起し、移住人口及び定住人口の増加につなげていく考えでおります。我々の地域を活性化させ、人づくり、まちづくりをこのシーニックバイウェイの制度に乗って行っていきたいと考えております。

簡単ではございますが、我々の活動を説明させていただきました。

以上、ご審議のほど、よろしくお願いたします。

○推進協議会（事務局） 本編資料1-3の6ページと7ページをご覧ください。

シーニックバイウェイの実施要綱の規約に基づきまして、今ご説明がありましたトカプチ雄大空間の指定を行いたいと考えます。

それに際しまして、7ページに協議会としての意見を付したいと思っております。

大きく二つに分かれておりますが、これは、ルート指定をするに当たっての評価、判断に必要な項目でございます。

まず、1点目の景観資源、地域資源の優位性につきましては、五つのポイントがあります。一つ目に、自然と農業の調和した景観は、アジアや欧米の視点からも優位性を持つ景観資源であること、二つ目に、歴史文化、開拓者精神を背景に、豊かな農業による食、文化、歴史、レクリエーションは地域の活性化を支える重要な地域資源であること、三つ目に、十勝で生まれ、人、そしてそのライフスタイルこそ大切な地域資源であり、二地域居住などの様々な交流が期待されること、四つ目に、寒く、明るい冬こそ冬期のアクティビティのために積極的に活用すること、五つ目に、市街地の景観は自然に比べ見劣りしていることから、その改善に向けて幅広く連携した取り組みが望まれることとございます。

それから、2点目の地域の魅力向上、ルートのブランド化については項目が四つあります。実業を中心としたルート活動は、地域産業の振興に資する新たな展開として評価できる、二つ目に、市民参加の活動や隣のルートと連携した取り組みも着実な進化が見られる、三つ目に、「食と癒し」のテーマを追求しながら、隣のルートとの緊密な連携、そしてルート独自のブランド力を深めていくこと、さらには幅広い市民と積極的な連携をしていくことなどが期待されるということです。最後の四つ目は、情報発信、プロモーションについて隣のルートとも連携しながら先駆的な取り組みを目指すことによって、さらに可能性と持続性を高めていくことが期待される。

以上が、トカプチ雄大空間の指定に当たっての推進協議会の意見として確認をさせていただければと考えます。

○推進協議会（事務局） この審査に当たりましては、事前にルート審査委員会にお諮りをしております。本日は、審査委員長がお見えになっておりますので、審査委員長から審査内容についての説明をいただきました後にご承認をいただければと考えております。

○推進協議会（会長） それでは、資料2-1につきまして、審査委員長、お願いたし

ます。

○審査委員会（委員長） 今ご説明がありましたルートを、審査委員すべてが複数回お邪魔しました。単に風景を眺めるだけではなくて、実際に活動をされていらっしゃる方と膝を交えながら、これまでの経緯や、これからの方針、考え方についてじっくりお話をし、先ほどのような意見としてまとめたわけでございます。

繰り返しになりますけれども、アジア全体に対しては、感動と申しますか、そういうことで極めて魅力という力を持っています。それから、ヨーロッパに対しても、ヨーロッパ人の風土と申しますか、文化と申しますか、そういうものと共感する力を持っている、特色ある珍しい地域だろうというのが審査委員の共通の認識でした。

もう一つ加えて申し上げるならば、非常にたくさん秘められた魅力を、先ほどルートの代表の方からご説明いただきましたけれども、築き上げようとしている理念とか、活動のテーマとか、それを具体的にどういうふうに進めていくかというアクションプログラムを着実に実行して行っていただきたい、そして、南と北に別々のルートがあるのですけれども、そこうまく連携しながら、十勝という大きな物語を描いて行っていただきたい。それが、十勝人のこれから期待されるころだろうと、これも委員会全員の意見でございました。

そういう意味で、審査委員会としては、この十勝シーニックバイウェイ、トカプチ雄大空間を推薦申し上げたいというふうに付け加えさせていただきます。

以上でございます。

○推進協議会（会長） ありがとうございます。

審査委員長から新規指定についてのご意見でございました。

これは、ここで皆さんの賛同をいただいて決定することになりますか。それが最終的な決定になるわけですね。

では、今ご説明がありましたシーニックバイウェイの新しいルート、トカプチ雄大空間について意見（案）を書いてございます。そのほかに、小林委員長のお言葉もありました。これで指定してよろしゅうございますか。

（「異議なし」と発言）

○推進協議会（会長） では、ご異議がないようですので、指定することといたします。

続いて、資料２－１、平成２１年度ルート運営活動状況の報告等について、ご説明をお願いいたします。

○推進協議会（事務局） それでは、資料２－１に基づきましてご説明させていただきます。

資料２－１につきましては、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第１１条４項に基づきまして、ルート審査委員会から推進協議会に寄せられた意見ということでございます。

いただきました意見といたしましては、シーニックバイウェイ北海道が本格実施されて５年が経過し、その中で全道各地で着実な広がりを見せている一方、一般市民を含めた内

外の認知度はまだまだ高いとは言えない状況や、地域資源、産業を生かしたシーニックカフェといったものを含めたコミュニティビジネスが展開されているという状況を踏まえて、大きく3点いただいております。

まず1点目が、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努められたいということでございます。2点目といたしまして、地域ビジネスの展開や人材の育成等によるルート活動の基盤強化、あるいは幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組みたいということでございます。3点目といたしましては、内外の環境を意識しながら、今後の展開の方向性について検討されたいということでございます。

以上の3点を意見としていただいております。

説明につきましては以上でございます。

この意見につきまして、審査委員長からコメントをいただければと思います。

○審査委員会（委員長） 今、事務局からご説明していただいた内容に尽きるわけですが、委員会として強調して申し上げるならば、先ほど会長もおっしゃいましたが、北海道開発局が全国に先駆けてシーニックバイウェイをスタートさせたわけです。国全体の動きあるいはアジア全体の観光の動きも当時とはかなり変わってきております。そして、フロントランナーとしての開発局の役割、その成果というのは着実に目に見える形で地域に残されつつあります。委員会としては、そろそろ第2ステージに突入しているのではないかと考えます。そうすると、国あるいは開発局の引っ張りといいますか、後押しといいますか、それだけではなくて、北海道全体、例えばこの推進協議会もそうでございますし、関連の皆様の諸団体もそうでございます。そういうところがもう少し表に出ながら、地域で活動されている方と結びついて、先ほど申し上げました北海道全体の価値をさらに高めて発信していくようなことをぜひ期待したいし、審査委員会としてもそういうことに対して後方支援したい、そういうことを意図に持ちながらの意見でございました。

以上でございます。

○推進協議会（会長） それでは、資料2-2の説明をお願いいたします。

○推進協議会（事務局） 続きまして、資料2-2に基づきましてご説明させていただきます。

資料2-2につきましては、平成21年度のルート活動報告についてでございます。

まず、1点目といたしまして、ルート活動団体等の活動状況でございます。

資料の中ほどに一覧表を設けておりますが、これは、各ルートの活動項目数ということで各ルート別に整理したものでございます。こういった活動を通しまして寄せられた報告といたしましては、シーニックナイトやウィンターサーカスといった各活動団体と連携したイベントを継続することによって地域の観光の活性化が図られている一方で、活動運営資金や後継者の不足の課題があるというご報告をいただいております。

続きまして、2点目は、ルート活動団体等の会議開催状況を同じく各ルート別に整理したものでございます。各ルートの開催状況につきましては、ルートごとにかなりばらつき

がある状況でございまして、各ルート間で課題は少々異なりますが、そういった会議をもっと活発にして連携のあり方を考えていく必要があるという報告が寄せられております。

3点目として、平成20年度の活動報告への助言に対する活動団体の報告でございまして、20年度の助言につきましては、資料の上に四角く囲った内容でございまして、ブランドの形成、活用、あるいは、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤強化などが上げられておりますが、こういったものに対しまして各活動が行われている状況でございまして、次への展開あるいは課題を考えていく上での報告といたしましては、先ほどから説明をさせていただいておりますが、さらなる認知度の向上が必要であること、あるいは、外国人や地域住民等への交流、連携を深めていくため、地域の若手を取り込んだ活動のキーマンとなる人材育成が必要であるといったことが報告として寄せられてございます。

続きまして、資料2-3についてご説明させていただきます。

こういった活動を踏まえまして、21年度の活動報告に対する助言ということで、実施要綱第20条第4項に基づく助言でございまして、ルート審査委員会からの意見につきましては、先ほど資料2-1で説明させていただきましたとおりでございまして、その意見も踏まえまして、推進協議会からの助言といたしましては、資料2-3の一番下の四角囲いの内容で助言をさせていただければと考えております。

内容を読み上げさせていただきますと、「シーニックバイウェイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開や人材の育成等によるルート活動の基盤強化に努められたい」ということで助言をしていきたいと考えておりますので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○推進協議会（会長） 今、資料2-3のところまで説明があったのですけれども、ここまででご意見やご質問等をお伺いしたいと思います。

この情報発信やPR活動というのは、具体的にはどんなものをこれから広げていこうというふうにお考えですか。決めてはいないかもしれませんが、こういうものが考えられるというものがあつたら、それを説明していただけますか。各コースにこんなことをやったらどうですかとお勧めするとすればどんなものがあるでしょうね。

○推進協議会（事務局） まず一つに、何をターゲットにするかということがございまして、お話ししましたとおり、地域の一般市民の方々へのPRをどうするか、お客様になっていただくであろう東京の方、もしくは東アジアの方にどうしていったらいいのか、それから、それを実際に実行するプレイヤーとして、私ども主に行政の者、また、ここにいる支援センターという専門にPRを行っている組織、さらには個別のルートという形で幾つかのターゲットとPRを担う役割がありまして、それぞれが何を対象にやっていくかを計画することが大事だと思っております。ちなみに、現在でいきますと、例えば、今言いましたそれぞれがホームページで専門のウェブを用いてPRなどをしておりますし、今回お配



りしているような形で、シーニックバイウェイ支援センターでは、こういったPR誌、情報誌を道内や道外の東京、大阪などの空港に置くなどPR活動に努めております。また、加えますと、北海道新聞などのウェブページにこのシーニックバイウェイの宣伝をさせていただいたり、幾つかの活動をしております。後でまたご説明しますが、まだまだいろいろな工夫をしていく必要があるのではないかという問題意識を持っていることから、まずは提案をさせていただきました。

○推進協議会（会長） ありがとうございます。

何かご質問やご意見はございますでしょうか。

この助言は、個別に対する助言ではなくて全体的な助言ですね。

○推進協議会（事務局） はい。仮に、今回の助言を承認いただきますと、それを本日の会議の後段で具体的にどんな形でしたらいいかというディスカッションをさせていただければと思っております。

○推進協議会（会長） わかりました。

それでは、助言の案はこれでよろしいですか。

（「異議なし」と発言）

○推進協議会（会長） よろしければ、この案で決定いたします。

続いて、（3）のベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2009について、資料3-1を使ってご説明をお願いします。

○推進協議会（事務局） 資料の12ページと13ページが該当いたします。

この表彰制度につきましては、平成20年度より実施しまして、今年が2回目に当たります。去る3月に、審査委員長を初めとしました審査委員会に審査、推薦をいただきまして、資料にありますように、最優秀賞2件、優秀賞1件、ルート審査委員特別賞2件を決定していただきたく思います。あわせまして、今回からのポイントとしまして、まだシーニックの正式なルートになっておりません候補ルートにつきましても、奨励賞、特別賞を授与しようということで、今年からのポイントとして加えております。細かな活動の中身につきましては、資料3-2（別冊）についておりますが、ここでの説明は省略させていただきます。

最優秀賞に推薦します2件だけをごく簡単に説明しますと、まず、大雪・富良野ルートの「雪のアートプロジェクト『ウィンターサーカス』」につきましては、ルート団体、地域の市民、アーティストなどが共同で雪のランドアートを制作しております。ことしの冬で5回目になりました。観光客の入り込みなども当初から見ると確実に増えてきていることなどが評価されたものでございます。

二つ目は、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの「シーニックカフェ」につきましては、その土地ならではの食材や地域情報を提供する場所を「シーニックカフェ」と称しておりますが、それを複数連携させながら、スタンプラリーやオリジナルグッズの販売など周遊観光を促すような取り組みに工夫を凝らしております。

以上のような理由で、それぞれ最優秀賞として推薦されております。

この後、審査に当たられました審査委員長より、資料3-2も含めまして総評をいただければと思います。

○推進協議会（委員長） 各賞の内容は、12ページの資料3-1に書いてある内容でございます。これは、どれが優れていて、どれが劣っているか決めることがこの表彰制度の目的ではなくて、全道のルートで活動されている皆さんがどんなことをやって、どういうところに力を入れて、その結果、どういうふうになっているかということを集まった場所で共有しようと。その中で、お互いに認め合う、これは審査委員だけで決めるのではなくて、そこに参加された方も投票するわけです。それで、なるほど、一本参った、けれども、次回は我々もというような気持ちになっていただくことがこの表彰制度の目的だと私は理解しています。

そして、今年はまだ魅力的な内容であった大雪・富良野ルートと釧路の「シーニックカフェ」が最優秀賞になりました。ただ、その下に書いてございますような各ルートの活動もきらりと光るものがたくさんございました。これを先ほど申し上げました北海道全体の宝になっていくように育て上げていくのが、我々審査委員、推進協議会、関連の団体の皆さんの役割だというふうに、改めてこの審査を通して実感いたしました。

以上です。

○推進協議会（会長） これらについて、何かご意見はございますか。

事務局の方で、選定するときの苦勞の裏話などはないですか。

○推進協議会（事務局） 選定に当たりまして、一番最初の投票でお互いに票を入れ合うという段階がありました。その場合は、先ほど審査委員長からもお話がありましたが、全道の活動団体が一堂に会する場を毎年秋に設けておりまして、その中で、1ルート何分の中で、自分のお国自慢といいたまうでしょうか、活動のポイントを説明してほしいという形でプレゼンテーションの時間があるわけですが、やはり、皆さんも訴えるべきものやお話ししたいことがたくさんあって、なかなか時間内に収まらないのです。あのルートがあれば時間オーバーできるなら、うちもというように、なかなか議事進行上に困りました。しかし、本当にたくさんの生の声があり、お互いに切磋琢磨するという意味で評価し合ったということがございました。運営上はそういったことがございましたが、実質的には非常に盛況であったと思います。

○推進協議会（会長） 審査委員長がおっしゃるように、どれが一番いいという評価はなかなかしにくいというのはよくわかりますね。これは、表彰したら何か副賞は出るのでしょうか。

○推進協議会（事務局） 直接的な賞という意味では、まずは表彰状です。昨年は、高向会長に表彰状の授与をいただきました。それも含めて、まずは、できるだけプレスの方に取り上げていただいて多く認知していただくことが一つでございます。それから、先ほどのPRの話もございましたが、こういったいろいろな印刷物の表紙などに、ことし選ばれ

たものはこうですよということで大きく取り上げるなどしています。

○推進協議会（会長） 宣伝効果ですね。

○推進協議会（事務局） 今、既に八つのルートがありますが、PRに際しては、いろいろな意味でバランスを考えなければいけない部分もございます。ただ、今回は、皆さん方の審議で、これはまず光を当てるすぐれた活動だろうということで、そこは強調してPRできるものだと思っております。

○推進協議会（会長） わかりました。

この各賞決定については案としていただいているわけですから、それでよろしいかどうかということを決めなければなりません。これはかなり重要なことですので、皆さん、何かございましたらどうぞ。

最優秀賞になっている大雪・富良野ルートの絵の中に、西神楽会場の作品で「WHITE CUBE」とありますが、このキューブは何を材料にしてできているのでしょうか。なぜこんな色が出るのでしょうか。これは雪ですか。

○推進協議会（事務局） 資料中の絵をごらんになっていらっしゃると思うのですが、大きく雪を積み上げて形を整えまして、それをランドアートというふうに称しておりますが、プロジェクターのスクリーンのかわりに絵を投影して、絵自体の移り変わりで来られたお客様を魅了するというものです。

○推進協議会（会長） 雪のキューブですね。

○推進協議会（事務局） そうです。

○推進協議会（会長） どのぐらいの大きさですか。

○推進協議会（事務局） これは、どれぐらいと言ったらいいのでしょうか。3メートルぐらいでしょうか。

○支援センター（代表） 高さが3メートルで、幅はもうちょっとあったと思います。

○推進協議会（会長） かなり大きいものですね。

○支援センター（会長） かなり大きいです。

○推進協議会（会長） 発想がいいですね。

その次の釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイは、カフェですね。カフェと言われるとコーヒーショップみたいなイメージですが、そうではないのですね。

○推進協議会（事務局） できるだけ地域のものをお出しするというので、例えば、弟子屈ですとエゾシカのハンバーガーを提供する店や、地元の釧路の絞りたてのミルクによるアイスクリームを提供したり、提供するものも一つ工夫したものを出しています。

○推進協議会（会長） 食べ物か飲み物であるわけですね。

○推進協議会（事務局） そうです。かつ、情報の方も、そこへ行くと手づくりの観光情報や地域情報みたいなものが、今回は四つのポイントがありますが、それぞれがある意味で歩調をとりながら、連携しながらやっているということが評価されたものだと考えています。

○推進協議会（会長） なかなかおもしろいですね。

では、各賞はこれでよろしいですか。

（「異議なし」と発言）

○推進協議会（会長） では、ご了承いただきました。

続いて、シーニックバイウェイ北海道ルート審査委員会について、資料4の委員の任命について（案）に基づいて説明をお願いいたします。

○推進協議会（事務局） それでは、資料4に基づきましてご説明させていただきます。

14ページでございます。

シーニックバイウェイ北海道の実施要綱第11条に基づきまして、ルート審査委員を協議会から任命する形になってございます。現在、6名の委員をお願いをしているところでございますが、今回、この任期が切れるということでの任命でございます。

今回は、ことしと来年の2カ年間をお願いをしたいと思っております。メンバーにつきましては、これまでお願いしておりました6名の委員の皆様引き続きお願いしたいと考えております。

筑波大学大学院教授の石田先生、日本国際観光学会副会長の石山先生、株式会社富士通総研取締役の臼井先生、北海道大学名誉教授の小林先生、北海道大学観光学高等研究センター教授の佐藤先生、北海道大学大学院准教授の高野先生、以上6名の委員でございます。

審議のほど、よろしくをお願いいたします。

○推進協議会（会長） これは、審査委員長に大変なご苦勞をお願いしているわけですが、審査委員長のお立場から、この人選について何か感想みたいなものをいただけますか？

○審査委員会（委員長） お上げいただいた方は、非常に熱心で、道外の方が多いのですが、北海道の隅々までわかっていらっしゃる方で、非常に適任だと思います。

加えて申し上げるならば、先ほどルートの人材育成という話がありましたけれども、こういう審査に加わって地域を引っ張っていくという審査委員の役割もあろうかと思っておりますので、審査委員としての人材育成みたいなものも必要かなと感じております。

○推進協議会（会長） 審査委員をお願いしても全く出席出来ない委員なんて、いないのでしょうかね。

○推進協議会（事務局） 皆さん、お忙しい中を出ていただいています。

○推進協議会（会長） では、改めてお願いするということで、皆さん、よろしゅうございますか。

（「異議なし」と発言）

○推進協議会（会長） では、これは承認をいただきました。

続いて、（5）シーニックバイウェイ北海道推進協議会の取り組みについてです。これは我々自身のことですね。では、説明をお願いします。

○推進協議会（事務局） では、資料5-1に基づきましてご説明させていただきます。

資料5-1につきましては、推進協議会の取り組みということで、21年の活動報告となっております。

主な報告といたしましては、大きく7点を記載させていただいております。

まず1点目が、全道会議の開催でございます。21年11月28日に、各ルートからの活動報告や講師によります基調講演、パネルディスカッション等を実施しております。

2点目といたしまして、その翌日の11月29日には、ワークショップを開催いたしました。「広域的な連携」「資金調達とコミュニティビジネス」「シーニックのブランド」という三つのテーマに基づきまして開催しております。

3点目といたしましては、表彰制度「ベスト・プラクティス」の実施でございます。こちらにつきましては、先ほどご説明させていただいたとおりでございます。

4点目といたしまして、推進協議会の構成機関等の21年度の主な取り組みということで、各構成メンバーの主な取り組みにつきまして記載しておりますが、後ほど意見交換等の中でもご説明があらうかと思っておりますので、ここでのご説明は割愛させていただきます。

続きまして、1枚めくっていただきまして、16ページ中ほどの5点目として、推進協議会の構成機関等との意見交換でございます。こちらにつきましては、我々事務局が10機関を訪問させていただきまして、個別の意見交換等を実施させていただいております。

また、6点目といたしまして、ルート活動団体との現地意見交換等ということで、我々事務局が九つのルートを訪問いたしまして意見交換をさせていただくことに加えまして、候補ルートであります札幌南シーニックバイウェイにルート審査委員会の佐藤委員にもご同行いただきまして、視察、意見交換等を実施しております。

また、7点目といたしまして、情報の提供、PRということで、先ほど一部ご説明いたしました、各種ホームページや紙面等を使いましてPRを進めております。

資料5-1の説明につきましては以上でございます。

○推進協議会（事務局） 続きまして、17ページの資料5-2でございます。

推進協議会としましての今年22年度の取り組み（案）として置いております。

大きく三つの項目が上げられておりますが、これは、先ほど会議の中で資料2-1というページがございました。ルート審査委員会から協議会に対して出された意見でありまして、その内容と取った対応となっております。

まず、一つ目のブランド形成、地域への浸透につきましては、さまざまな課題についての意見交換などを全道会議やワークショップで行っていくこと、また、普及啓発の取り組みについては、一般市民への認知度を高めるために情報発信、PRの取り組みを実施していくことがございます。

それから、二つ目のルート活動の基盤強化や支援体制の強化につきましては、今日ここに参加いただいております協議会構成機関の皆様方の支援ツールも含めまして、それを活かさせていただくように取り組んでいくこと、また、シーニックバイウェイ支援センターが取り組んでおります民間企業との連携や着地型観光の支援などをこの協議会としまして

も一緒になってやっていこうということがございます。

それから、3点目の今後の展開の方向性検討につきましては、前段、皆様方の方からお話がありましたこれまでの活動の成果、そして取り巻く状況の変化などを踏まえながら、今後の展開の方向性について推進協議会としても検討していくということになります。

大きくこの三つを上げまして、この三つの項目を今年度の取り組みの柱としてご承認いただきたいということが一つです。それから、この後の協議会の意見交換の場におきまして、まさしく三つ目の今後の展開の方向性の検討に当たりますが、早速、出席者の皆様方からご意見をちょうだいできればと考えております。

以上でございます。

○推進協議会（会長） 平成21年度の活動状況報告について説明がございました。

ご質問やご意見はございますか。

パンフレットをつくったりDVDをつくったりするお金はどこから出ているのですか。

○推進協議会（事務局） 例えば、こういった情報誌につきましては、開発局では21年度は作成しておりませんが、シーニックバイウェイ支援センターの中で外部から活動資金、助成金、具体的には、本日も参加いただいておりますが、経済産業省の交付金を申請、取得されまして、それに基づいた活動としてこういったPR活動もされていらっしゃいます。

○推進協議会（会長） なるほど、経済産業省がお世話してくださるのですね。それはありがたいですね。

17ページに資料5-2があって、別冊として別のものがありますね。

ご意見やご質問等をどうぞお願いします。

この資料5-2の22年度の取り組み（案）は随分抽象的ですね。

○推進協議会（事務局） まだ具体的に書き込む部分がございます。

○推進協議会（会長） 一応、ここで意見をいただいて反映したいということですね。

ご質問、ご意見はありませんか。

（「意義なし」と発言）

○推進協議会（会長） そうすると、これからがおもしろくなるわけですがけれども、皆様、この取り組み（案）に反映できるかどうかは別として、今、それぞれのお立場で何をしたいらっしゃるか、どんな問題意識を持っていらっしゃるか、それから、シーニックバイウェイに対してはどんな意見をお持ちか、聞かせていただけますでしょうか。一番のプロはやはり北海道観光局長だと思いますけれども、何かご発言をお願いします。

○推進協議会（北海道） 今回初めての参加でございまして、4月に着任をして、シーニックバイウェイをまだよく理解していないところもありますので、的外れな意見を申し上げるかもしれませんが、私の印象などをお話しさせていただきます。

個人的な意見ということで申し上げますと、北海道の観光ブランドということに大きくかかわってくるような取り組みだと思えます。北海道は、これまで何十年にもわたって、観光ブランドとしては超一流で、行ってみたい観光地でも常に上位の1位、2位で、海外

でもそういうふうに認知されている状況でございます。逆に、余りにも北海道の観光ブランドが強いがために、三大話と言われていた自然景観、食、温泉というところからなかなか脱し切れないということが、北海道観光のある意味では悩みでもあるのだろうと日ごろ感じております。

例えば、有珠山が噴火した平成12年は、観光客の入り込みが全道でぐっと落ちました。つまり、私個人的には観光ブランドの逆機能というふうに言っているのですが、北海道というブランドが余りにも強いがために、何かマイナスなことが起きると全体が沈んでしまうという逆機能が生じているのではないかという問題意識を前から持っておりました。ですから、何を申し上げたいかという、やはり、北海道の地域、地域はいろいろな個性があって違うので、地域の観光ブランドをそれぞれが打ち出していく必要があるのではないかとことを常日ごろ思っております。

道では、この4月から、いろいろと議論はありましたが、総合振興局という体制を組みました。その中で、各振興局長が自分の裁量で2名ずつ配置をして、自由に仕事をさせるという取り組みをこの4月からスタートさせましたけれども、やはり、各地域で見えておりますと、圧倒的に観光と食に取り組む事例がほとんどと言っていいくらい多いわけですので、冒頭に会長がおっしゃいましたとおり、これから地域もその二つで、特に観光も食に関連させて作っていくという動きを示しているということだと思います。

ただ、どこも全く同じように食と観光ということになるので、やはり何かしら、他とは違う、場合によっては道内の他の地域とも違う、そういう個性を育てていくことが非常に大事だと思っております。

そういう面で言うと、このシーニックバイウェイの取り組みは、まさしくその地域の方々が自主的に地域の資源を使って地域の魅力を作っていく、それを外に向かって発信していくということで、非常に有益な取り組みではないかと思っております。

先ほどからPR不足というお話がありました。やはり、観光受けをねらって何かをやるということではないので、先ほどのアートのようなものも非常に個性があっていいと思うのですが、他に向かって発信するものについては、地域の方々も一生懸命やっておられるけれども、観光交流に直接結びつくというところが足りない面がどうしても出てくるのだと思います。それは、資金面とか人材面とかいろいろな要素があると思いますけれども、観光というものを主としてターゲットにするということであれば、もう少し観光開発に近づけていくような取り組みを推奨していく、引き上げていくということにももう少し力を入れてやった方がいいのではないかと若干感じております。

道、それから観光振興機構では、資金もつけながら、地域でいろいろな取り組みを支援する仕組みもやっておりますので、そういうものも活用していただいて、これからそういうことに力を入れていただければと思っております。

以上でございます。

○推進協議会（会長） ありがとうございます。

このシーニックバイウェイの議論をしていて時々出てくる問題が、北海道庁自身を持っている道路の名前がありますね。例えば、富良野の花人街道がありますけれども、これは両方を並行的にやってもいいという感じですか。それとも、たまたま偶然そうってしまったという感じですか。局長は新しいからご存じないかもしれません。

○推進協議会（事務局） 花人街道につきましては、国道を中心として縦にあります。そういう意味では、国、地元の道、土現、支庁も入ったような運動だと思います。

○推進協議会（会長） あそこはシーニックバイウェイも入っていますね。

○推進協議会（事務局） もちろん、そういう意味ではシーニックバイウェイの一つのコアといいますか、中身でもあると思います。

○推進協議会（会長） シーニックバイウェイの構成部分だという考え方ですか。

○推進協議会（事務局） 今は、むしろシーニックの方がもっと大きな包含するものだと私は考えております。

○推進協議会（会長） そう言っていますけれども、いいですか。

両方あって、二重行政をやっているのだという笑い話にしても別に構わないですけれども、何か問題は起こっていないわけですね。おれのところは花人街道と言え、おれのところはシーニックバイウェイと言えということで地元で困っているとか、そういうことはないのですか。

○推進協議会（事務局） そういうことはないと思います。

○推進協議会（北海道） 時期的には花人街道の方が先ですね。地元の方々が、ちょうど富良野のラベンダーや「北の国から」という大きなきっかけがありましたので、南富良野から旭川まで、途中に美瑛もありますし、それで花人街道ということでやり始めたのです。シーニックは、ある意味でそれを包含する形で設定されたというふうに私は理解していますが、それでよろしいですか。

○推進協議会（会長） その花人街道という名前はまだ残っているわけですね。

○推進協議会（事務局） 道路際などにそういったサインはあります。

○推進協議会（会長） 観光だから、別に名前にこだわってもしようがないですね。

○推進協議会（北海道） あと、つけ加えて申し上げるならば、新しい動きとしては、それこそ十勝の事例が先ほどありましたけれども、ガーデン街道を新しい取り組みで十勝を中心にやっております、千年の森や紫竹ガーデンなど十勝には非常にいいガーデンがありまして、それを旭川まで通して、これまた花人街道とかぶるのですけれども、それこそ富良野の風のガーデンとか、今、非常に注目されているようなガーデンをつないで一つのルートとして設定するという動きをしております。そういう多様な取り組みがあつて、それはそれでよろしいのではないかと考えております。

○推進協議会（会長） いろいろなものが存在してよろしいということですね。

○推進協議会（北海道） はい。

○推進協議会（会長） というご意見でした。おもしろいですね。



では、順繰りに行きましょうか。

日本自動車連盟、お願いいたします。

○推進協議会（日本自動車連盟北海道本部） ちょっと抽象的なお話で恐縮ですが、私どもも会員が全国で1,710万名おまして、北海道は夏の観光のディステーションということで、数多くの方が訪れます。訪れる方も、3泊4日で全道一周とか、私も本州の人間なのですがけれども、住んでみると、いいところを飛ばして素通りして走っているなという感じがしております。今回、シーニックのコースが9コースできるということですから、見方によっては9回来ても十分満足できるという形の取り組みが今後必要なのかなという感じがしております。

私どもは、恐らくこの後に出てくると思いますが、内部の取り組みとしまして、シーニックバイウェイのコースを取り上げた地図を配布したり、私どもJAFのインターネットを使った「JAFナビ」というコースの中でシーニックバイウェイのコースを設けてPRをしております。やはり、観光の一等地というか、よくパンフレットに載っているところだけを見て回るよりも、本州の人とのコミュニケーションとか、そういった部分が感じられるものがシーニックの中にいろいろ出てくるのは非常に有効だと思っております。

以上です。

○推進協議会（会長） ご質問やご意見がありましたら、関連がありましたら、どうぞ随時やってください。

では、観光協会、よろしくお願いいたします。

○推進協議会（日本観光協会北海道支部） 資料5-2にあります平成22年度の取り組みですが、私には、この中身を見ていて、1番目、2番目、そして丸ポツ等がありますが、どれを見ても一つ一つ重要なことなので、ぜひ22年度はこれを最重点に取り組んでいただきたいと思っております。

あわせて、資料2-1にもあります審査委員長からの提言についても、現地で活動している人たちは本当に一生懸命やっておりますけれども、それが道民といいますか、この近郊にいる方々にどれだけ認知されているかとなると、やはりちょっと不安なところもありますので、PR等によるブランドの形成も集中的に力を入れて、現地で一生懸命やっている人たちに何とか報えるように、多くの道民の方々にこのシーニックバイウェイを認知していただくような取り組みもあわせてお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○推進協議会（会長） ありがとうございます。

では、北海道経済連合会、お願いいたします。

○推進協議会（北海道経済連合会） シーニックバイウェイにつきましては、一番初めに会長からお話がありましたように、単年度ではなくて、地元が長年取り組んでいるものを、それこそ醸成を見ながらそこを認定していくという形で、やり方が大変おもしろくて、一番初めに全国で取り組んだものとして大変おもしろい企画だと思っております。

ただし、一つだけ、これは前にもどなたかご意見を言われたのですが、観光という観点を切り口としていくのであれば、国土交通省の例えば観光圏とか、同じような地域の指定ということがあるかと思えます。そういうもの全部が連携するようには言いません。その中でうまく連携できて、もっと総合力を発揮できるようないい体系がつかれるといいなと常日ごろ思っているところをございまして、ぜひ、そのようなところもあわせて検討して、より総合的な力を発揮できるような体制になっていけばと思っています。

以上です。

○推進協議会（会長）　続きまして、北海道商工会連合会、お願いいたします。

○推進協議会（北海道商工会連合会）　きょう、皆さんのお手元に「ちょっと暮らし」というパンフレットをお配りさせていただいております。これは、NPO法人住んでみたい北海道推進会議が作成しているパンフレットであります。その中に附せんを張っております、シーニックバイウェイの全ルートではありませんけれども、六つのルートだけを紹介させていただいております。この住んでみたい北海道につきましては、北海道への移住を希望している方々を受け入れして、地域の活性化に何とか結びつけようという趣旨で活動をさせていただいているのですけれども、その事務局を私ども商工会連合会の中に置いているということをございます。

そして、この住んでみたい北海道の主な活動といたしましては、都市圏へのプロモーションと移住希望者の相談窓口業務を行っております。ちなみに、昨年度は、都市圏のプロモーションということで、東京、大阪で「北海道暮らし・フェア」を開催しまして、たしか、東京で1,500人、大阪で1,700人の来場者がいたということをございます。そのときに、この「ちょっと暮らし」に、空き室、空き家の情報とともにシーニックバイウェイの6ルートに掲載させていただいて、少しでもPRをさせていただいているという状況をございます。

○推進協議会（会長）　ちょっと質問をしていいですか。

住んでみたい北海道推進会議は、もともとは函館にあったのですけれども、今は札幌にあるということですか。

○推進協議会（北海道商工会連合会）　NPO法人住んでみたい北海道推進会議につきましては、どちらかというと、この活動趣旨に賛同いただける企業あるいは一般の方々から会費をいただいて運営させていただいておりますが、移住促進協議会については、市町村、行政が移住促進のために組織している団体になりまして、今年度から移住希望者の相談窓口を一元化するというので、移住促進協議会の事務局も私どもの中に置いて一元化を図っていかうという趣旨をございます。NPO法人の中に市町村が入るのはいかなものかというところもございまして、当面は、組織としては二つで行きますけれども、事務局は一つという形で活動をしていきたいと考えてございます。

○推進協議会（会長）　次に、お金を出していただいている経済産業局さん、本当にありがとうございます。

○推進協議会（北海道経済産業局） お金を出しているということでございますが、たまたま広域総合観光集客サービス支援事業という補助制度がございまして、これにシーニックバイウェイ支援センターを中心としたコンソーシアムで応募いただきまして、昨年度、これが採択になったということで、事業の2分の1を支援している状況でございます。今回出ております「Byway」の発行や、ドライブ観光専門のウェブの構築というものに支援をさせていただいております。

今年度につきましても、できれば同様のご支援を続けたいと思っております。事務的に作業を進めております。多分、大丈夫だろうと思っております。

○推進協議会（会長） ぜひ、よろしく申し上げます。

次に、環境省からお願いいたします。

○推進協議会（北海道地方環境事務所） なかなか皆さんとお話する機会がなかったのですが、実は、私自身今回で4回目の参加になりまして、行政関係者の中では一番古いのではないかというふうに思っております。

お話を伺っていて、実は、先ほど北海道経済連合会さんがおっしゃられたことで私も感じることがありまして、この会議が観光推進の会議なのか、それとも道路景観形成の会議なのか、若干悩むところがございます。

それはさて置いて、私の方の立場から意見を言わせていただきますと、一つが道路景観の形成についてです。これをもう少しきちんと考えていくことができないだろうかと感じております。私たちの環境行政はどちらかというと規制行政が多いわけですが、現地の方では利便性を優先させるか、それとも景観を優先させるかということが多々問題になります。シーニックバイウェイの施策そのものは、私たちのところで係わるものは少ないのですけれども、例えば富良野の方で峠に観覧車をつくった事例を巡り、これが良いか悪いのかという論争がありました。確かに、そこでの新しい観光対象としては一つの意味があることではあると思っておりますが、それが景観というシーニックバイウェイの目的として合致するののかという、それはまた別問題ではないかと思うのです。ですから、単に観光推進ではなくて景観との調和ということをきちんとキーワードにしてこの会議では打ち出していくべきではないかと思っております。

また、私たちの機関ではできないことなので、ここにいる皆さんにお願いした方がいいのかもしれないのですが、景観形成というのは、負の遺産対策といった面もあります。道路沿線で廃墟が結構あります。これを何とかしたいと地域の方で考えているのですけれども、これはサミットのときにも問題になっていましたが、サミットということでようやく撤去に至った事例があります。こういった問題は、北海道の中でも至るところであると思えます。せっかく人を呼ぶのであれば、そういったことに対してもお互いの連携がとれればいいなと感じております。そのほかにも、サロベツ原野の海岸線の道路には視線誘導標の付いているところと付いていないところがあります。景観としてどちらがいいかというのは、多分、見ていただければ一目瞭然でわかると思うのですけれども、一方で交通安全

のことを考える必要もあります。景観をつくるということを考えたときに、そういうものも含めてどうしていくべきか、これは環境省だけではなくて地域と一緒に考えていくべきではないかと思っています。電線の地中化に関しても同じことではないかと思えます。それが一つ目です。

二つ目は、今年の10月に第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）が名古屋で開かれます。北海道の魅力は豊かな自然だと思います。言いかえれば、生物多様性が非常に豊かということです。北海道の自然を単なるブランドとして活用するだけではなく、皆で自然というものをもう少しきちんと考えてやっていくべきではないかと思えます。

一つの例を挙げますと、知床の世界自然遺産に登録され、一時ブームになりましたけれども、ブームが一段落しました。やはり、ブームにのるのではなくて地道にやっていかなければいけません。今、私たちの方では、知床に熊が出ますので、それとの共生を図るために高架木道をつくりまして、今年からオープンさせました。あわせて、知床五湖を回る人たちについては来年からは必ずガイドをつけることとなりますが、今年も試行を開始しております。自然との共生をしながら付加価値をつけていくなど、単に大量誘客、大量消費ではないものが北海道では必要ではないかと思っております。

景観をきれいに飾るのはいいことですが、それが必ずしも北海道の生物多様性にいいわけではないということがあります。例えば、ある山岳地帯に向かう道路沿線ではラベンダー花壇が整備されていますが、その花にセイヨウオオマルハナバチという外来の昆虫が誘引されます。そして、その先の高山帯においても、目撃されるようになった例があります。これがなぜ問題視されているかという、セイヨウオオマルハナバチが在来種と競合して駆逐してしまうのです。そうすると、もしかしたら高山植物の生育に悪い影響を及ぼしてしまうかもしれない、高山植物が見られなくなってしまうかもしれないということで、今、何とか山岳部に入れないようにという取り組みをしております。多分、皆さんはよかれと思って植えているものが、そういう影響を与えてしまうことが否定できません。

あとは、オオキンケイギクという外来生物法で規制を受けているものがありますが、皆さん知らないということもありまして、道路法面に結構生えています。中にはワイルドガーデンの一種として植えているところもあるようですが、こういったことが北海道従来の生物を失わせてしまうということもありますので、ぜひ、景観形成、それから生物多様性ということもシーニックバイウェイの中に入れて取り組んでいただければいいなと思えます。

以上です。

○推進協議会（会長） ありがとうございます。

最後に、北海道運輸局、お願いいたします。

○推進協議会（北海道運輸局） 先ほどから出ているPR関係のことについて、かなり個人的な意見ですけれども、思ったことを少し言いたいと思えます。

シーニックバイウェイの取り組みにつきましては、非常に素晴らしいことだと思っております。特に観光立国と言っている中でも、住んでよし、訪れてよしというのが基本的な考え方であります。住んでいる人が自分たちのところに誇りを持ってお客様を迎え入れることがまず最初だと思います。そういう意味では、シーニックバイウェイの取り組みについては、地域への愛着や誇りを持ちましょうということをしっかり前面に打ち出していることは素晴らしいと思います。

その次に、今回、少し話題になっている認知度をどうやって上げるかという話だと思います。ブランドの形成と書かれていますけれども、ブランドも知られないとブランドにならないと思いますので、いかに知られるかが大事かと思えます。

今日ご報告いただいた昨年度の取り組みやこれまでの取り組みを見させていただきますと、非常にいろいろなことをやられているなと思います。多分、いろいろな議論を十分にされてやっているのでは今さらというところもあると思いますけれども、私がこの取り組みにかかわったのは最近というか、過去のことを余り知らないのであえて言います。今までもやっていると思いますが、全方位でやるとどうしても薄く広がってしまうので、ある程度はメリハリをつけなければいけないと思うのです。観光物はどんなものでもそうだと思います。当然、道内の人をターゲットにするのか、道外のお客様をターゲットにするのか、海外のお客様をターゲットにするのか、それとも、初めて来た人をターゲットにするのか、リピーターをターゲットにするのか、分けはいろいろあるので難しいのですけれども、ある程度ターゲットを絞らなければいけないのではないかと思います。

非常に釈迦に説法なところがありますし、当たり前のことですけれども、できることをやるのではなくて、必要なことをやらなければいけないと思うのです。ですから、冊子も、置けるとところに置くのではなくて、読んでほしい人にとってもらうために置く場所を探して、そこは今までだめだったかもしれないけれども、開拓して置いて置くような努力をしないと広がっていかないと思います。

私の個人的な意見を言うと、シーニックバイウェイを使っただくのは間違いなくドライブだと思いますので、北海道に一番最初に来た人がまず最初にドライブを選択することはそんなにないのではないかと思います。やはり、北海道に最初に来た人は、まずは、割とべたといいますか、非常にノーマルな観光地を回って帰っていただくのかなと思います。それで、憧れて、いいよねといってまた来たときに、次の選択肢としてドライブがあると私は思うので、最初に来た北海道初心者の方よりもリピーターを狙っていった方がターゲットに近いのかなと個人的には思います。

そう思えば、いろいろなやり方の工夫も幾つか出てくると思います。例えば、私個人的なことを言って失礼なのですが、私はもともと北海道出身でして、この20年ぐらいは北海道を離れていて、去年から久々に北海道に住むことになりました。もともと国交省の者なので、シーニックバイウェイを知らないわけではなかったのですが、実は、そんなに深くは知らなかったのです。去年、北海道に来るまでに、北海道でやっているシーニ

ックバイウェイを何らかの情報で私が入手したかという、したことがないのです。東京とか名古屋にいたときに北海道がシーニックバイウェイで具体的に何をやっているかという情報にほとんど触れた経験がないわけです。一応、北海道に住んでいたこともあって、北海道の情報もそれなりに知っているし、親もいますので、数年に1回ぐらいは帰ってきますから、そういう意味ではリピーターです。そういう人が触れるような機会がもっとあってもいいのかなと思います。

例えば、これは思いつきですけども、今、全国各地で北海道物産展をやれば必ず人が物すごく来るというふうになっていまして、一番もうかる商売だと思います。そういうところにPRコーナーをだれかに頼んでやってもらうとか、もともと北海道に興味を持っている方が来るので、そういう方たちが集まるところでPRをするとか、これもやっているのかもしれませんが、東京に北海道の情報コーナーがありますね。ああいうところでもっとうまくPRするとか、そんなやり方もあるのかなと思います。かなり思いつきで、もう既にやられていたら済みません。そんなことをちょっと思いました。

それから、先ほどちょっと出ていましたが、国交省の中の施策ももっと連携するべきというのはそのとおりだと思います。観光庁絡みでは観光圏という施策をやっている、ことしも新たに函館と釧路が認定されました。今回のシーニックバイウェイのエリアにも当然かぶっているところなので、そういうところとも十分連携するように、我々もしっかりと肝に銘じてやっていきたいと思っております。

以上です。

○推進協議会（会長） ありがとうございます。

大体一渡り済んだわけでございます。

先ほど環境省からありましたが、これは道路の話をしているのか、観光の話をしているのかというのは、おれは環境の問題もあるぞという主張をすると、これは、非常におもしろい点で、非常にいいのです。私は、このシーニックバイウェイの協議会の会長を仰せつかりまして、これは商工会議所会頭だからやれと言われてまして何が何だかわからないままになったのですけれども、これはそもそもどういうものかということ、回を追うごとに少しずつ理解してきたのです。こんなふうに理解しているのです。これが最終版ではないのですけれども、もともとこれを開発局がするという事は、道路からスタートしたのです。開発局というのは道路を作るところである。道路を作るといことも大事ですし、それはやっていただかなければならないのですけれども、できた道路がどう使われるか、それをどう改善するかということも開発局の大きな仕事であるということにだんだん気がついてきたと思うのです。最初は作ればよかったのです。どんなに不便な道路でも、景色が良くない道路でも、使い勝手の悪い道路でも、作るということが大事でしたけれども、道路の建設がかなり進んで残りが少なくなってきた段階で、どういうふうに使うか、ストックをどう使うかという観点からここに入ってきたのだろうと想像するのです。それは非常にいいことだと思います。

私が商工会議所として関心を持ちますのは、これは商売につながるなど。観光客を持ってくるのに、このシーニックバイウェイの指定があれば非常にいいということです。もう一つ、別にある道の駅も道産品の販売の拠点に使えるからいいと。道の駅は点ですけども、シーニックバイウェイは、ライン、線ですね。こういうものが経済的になるという観点から、私は関心を持ちました。ですから、入り口は違うのですが、利害相一致してお手伝いをしているのです。

私らよりも観光関係の方々の方がもっと切実な感じですよ。実際に各地方でこれに関与している方々は、観光とか、まちおこしとか、そういう方々がやっていますから、現場の方からはどちらかというと観光に引っ張っていく引力があると思います。では、観光なのかということですが、やはり、私は、最終的には景観というところで全部まとめていると思うのです。ですから、環境省の方がここに来ていただいている、あるいは、こちらへお招きしているということは非常に大きな意義があるのです。これでどこかを指定しようとするときに、観光的にはいいかもしれませんが、ちょっとおかしいではないかと。先ほどのラベンダーの話もいいと思うのです。誰も気が付いていないのですからね。我々はそういう問題意識を全然持っていないのです。ですから、そういうものをしてくださって、場合によっては、この指定はだめだとおたくから言ってくださってもいいと思います。関係ない人がたくさんいるなという感じも最初はあるのですけれども、そうではありません。それぞれの立場の人が景観ということを中心につながっている、そんな協議会であり、これは非常に意義があると思うのです。

経済産業省が観光産業について関心を持ってくださるのは非常にありがたいことです。例えば食べ物も、どこの省かということ農林水産省ですけども、食品工業という観点からすると経済産業省になりますね。現代はどこの省かということは関係なくて、どこにも関係あるような、みんなが関係あるようなテーマだと思うので、この協議会は意味があるなと思いました。

最後に局長にお話ししていただきますが、事務局として、今日の議事進行について何か文句があると思いますし、まだしゃべり足りないことがあるでしょうから、しゃべってください。

○推進協議会（事務局） 議事進行の話でいきますと、22年度の取り組みを一旦まとめていただきまして、かつ、先ほどいろいろな方々からいただいた問題提起も含めて、資料7を別冊で用意しておりますので、少しだけ説明をして、また皆様方からご意見をいただければと思っておりました。

○推進協議会（会長） どうぞ説明してください。

○推進協議会（事務局） シーニックも5年目を経過しまして、今後、どういった形で進めていったらいいだろうかという大きなテーマがございました。資料7の1枚物の紙、それから、それに対応する形でパワーポイントを10枚ほど付けさせていただきます。

先ほどの皆様方の意見とも係わりますが、少しの時間、説明させていただきます。

まず、一つ目の活動の意義、目的の再確認でございます。

シーニックは、道をきっかけに地域や行政などが一緒になって美しい景観、活力ある地域、魅力ある観光空間づくりを行う取り組み、運動だと思っております。これらのシーニックの活動は、まず第1に、地域の愛着、誇り、地域のブランドの形成、旅の快適性をいかに良くしていくかにつながることで意義があると考えております。

第2に、この絵で言いますと、さらに上に向かっていく方向になりますが、これらの地域の魅力、旅の快適性を、一つのテーマとしては、特徴のある、観光の中でもドライブ観光の振興に結びつけることによって、地域の産業、雇用、交流人口の拡大につながっていくのではないかと考えています。それをまずイメージとして表現したものでございます。

二つ目に、今の位置づけとして、とにかく観光の高まりでございます。パワーポイントでいきますと、2ページ目、3ページ目にありますとおり、まず、北海道の経済は、直接、間接を含めまして観光というものが非常に大きくなってきています。それから、3ページ目にありますとおり、東アジアを中心としまして外国人観光などを含めて観光の振興をどういうふうに進めていくかが非常に大事だということでございます。

それから、パワーポイントの4ページ目でございますが、一方、このシーニックというのは、今のところ、観光とどういう係わりになっているのかということでございます。再三申しましたとおり、シーニックを知っていますかという認知度で問うた場合、「よく知っている」が1割、「知っている」が3割にとどまっております。一方で、シーニックのルートの魅力につきましては、9割の方がシーニックのルートに行ってみたい、4割の方は実際に訪れたことがあるということで、一定の効果も上げているのではないかと考えます。

それから、5ページ目になります。

私も北海道開発局としましても、総合開発計画の中などで国際競争力の高い魅力ある観光地づくりということを位置づけておりまして、それを具体的に進める大きなツールではないかと考えております。

次に、ペーパーの三つ目です。

これまでの取り組みではどういったことをしてきたのかということで、大きくは地域への愛着、誇りの形成、地域ブランドの形成ということでございます。例えば、先ほど環境省の方からもお話がありましたが、邪魔な道路のアクセサリなどにつきましては、話し合って2本を1本にしたり、もしくはお金を少しかけて折りたたんだり倒し込んだり、夏場でも邪魔にならないようなものに取りかえていたり、そういった景観を良くするための取り組みなども進めてきているということをこの中で紹介させていただいております。

それからもう一つ、パワーポイントの7ページ目に課題ということで置かせていただいております。今日この場では、主に支援する側の皆様方にお集まりいただきまして、実際の現地の方々というのはトカプチ雄大空間の代表だけでございます。そんな現地の方々がシーニックに対してどんな思いや課題を持っているのかということで、これは昨年秋に開催



した全道会議の中での意見です。五つほど紹介しております。

まずは、PRについての努力、工夫が必要だということ、二つ目に、ドライブ観光が大事だと言いながら、きちんと大事なポイントに誘導する情報のシステムが整っているのだろうかということ、三つ目に、ビジネスも大事だけれども、当初、大事にやってきた景観の整備や地域づくりの部分をこれからも大事にしていくべきではないかということ、四つ目に、活動を続けていくには楽しい取り組みでなければいけない、また、後継者づくり、もしくは若い人も含めた活動の幅を広げていくことが大事だということ、最後に、民間企業との連携や活動資金を得るためのいろいろなノウハウの習得が必要ではないかというようなことが、代表的といたしますか、ピックアップしたものとしていただいております。

その上で、先ほど言いましたが、仮にシーニックバイウェイの一つのテーマとしてドライブ観光の振興をテーマにした場合、パワーポイントの8ページ目にありますが、大きな意味での地域の魅力づくり、それから、それを実際に有効なものとする社会経済活動との結びつきをどうやっていくかということが考えられると思っています。誰がどんなことができるかということ为例示的に挙げておりますが、これは、あくまでも意見交換の素材として置かせていただいたものでございます。その上で、全体をきちんと包含して評価するには、9ページ目にありますが、いろいろな活動のコンセプトを縦に置き、横軸には、ここにいらっしゃる推進協議会の方々にも、道路の管理者やルートの現場の方、民間企業の方、また、サービスを受ける観光客の方など、それぞれの立場でどんな成果や課題、要望などがあるのかを整理してみる必要があるのではないかと考えております。

最後のページになりますが、それらを考えて進めていく上でも、このページにあります地域を主としながら、我々の協議会、それから民間企業の方々などを中心としてこの体制をどうやって実効性あるものにしていくかが大事ではないかと思っています。

以上でございます。

○推進協議会（会長） どうもありがとうございました。

そうすると、残っている問題がありまして、平成22年度の取り組み（案）を決定しなくてはならないわけです。原案は余り具体的なことはたくさん書いていないけれども、これは一応了承して、ここで出たいろいろな意見を踏まえてくださいという決議の仕方よろしいですか。

○推進協議会（事務局） はい。

○推進協議会（会長） では、皆様から出たいろいろな意見を折り込むことによってこれを完成していただくということでご了承いただければよろしゅうございますか。

（「異議なし」と発言）

○推進協議会（会長） では、ご異議がないものと認めます。

まだいろいろな議論がまだあり得るのですけれども、皆さんから一渡りご意見をいただきましたので、このあたりで局長から総括、講評をしていただきたいと思います。

○推進協議会（副会長） 皆さんから、まさに今、今後のシーニックがどういうふうに進

んでいくか、どういうふうに進めていくかという意味でのご意見を広くいただきましたので、事務局としても非常に感謝申し上げます。

私自身、シーニックというのは、一番最初に道庁の観光局長がおっしゃったのですが、例えば一つは、北海道という観光のブランドを、シーニックという切り口でさらにブランド力を高めていくということです。いろいろな登り方があるのだろうと思いますけれども、むしろ、ブランド形成強化により貢献できるような形でやってきましたし、今後もしよければいいのではないかと考えています。

1点、視点が全然違うのですが、副大臣のときに一緒に話をさせていただきました政務官がお見えになったときに、西神楽をご案内しました。シーニックでご説明して、二地域居住をご説明しました。要するに、夏の間は長期滞在していただく場所として、また、雪が多いものですから、冬の間は高齢者のひとりでお住まいの方にそこに集まって住んでいただく、そういう意味での二地域居住と両方をやっています。そういう意味では、観光と厚生労働省のやっているものが結びついて、さらにそこにグランドワークが重なっていて、極めて象徴的なシーニックの一つの動きだと思っています。

何を言いたいかというと、5年がたって、各地域で、各地域の課題にのっとった独自のいろいろな活動をして、しかも非常に成果を上げている、あるいは、先駆的な活動をされているものがあちこちにあります。これ以外にも阿寒の話もいろいろ聞かせていただいています。そういう意味では、地域の価値を再認識して、シーニックとしてどういうところを共通項として応援させていただくのか、そういうような時期に差しかかっているのかなと、そう思いながら今日の話聞かせていただきました。この後、皆さんがおっしゃるものを事務局としてどうまとめて、あるいは、どう優先順位をつけて対応していくのか。今日は会長に引っ張っていただいて皆さんから話を聞かせていただいたのですが、もうちょっと今日のような議論を少し深めていくような場を、もし皆さん方にご了解いただければ、会長に引っ張っていただいて進められれば、次に向けての方向性ももう少し見えてくると思います。そのときに、実際に各地域でご苦労いただいている皆さんからも、ここが大変なのだ、ここがうまくいったのだ、そんな話も聞かせていただきながら進めさせていただければ、次に向けての再スタートが切れるような、そんなきっかけにできればと思って聞かせていただきました。

○推進協議会（会長） どうもありがとうございました。

最後に、これだけはもう一回言いたいということがあれば、お願いしたいと思います。

○推進協議会（事務局） 会長、トカプチ雄大空間の代表にも現場の方として来ていただいておりますので、一言いただいてよろしいでしょうか。

○推進協議会（会長） どうぞ。

○トカプチ雄大空間（代表） せっかく貴重なお時間をいただきましたので、一言だけお話しさせていただきます。

地域は今、非常にいろいろな疲弊感がある中、少しでもその活動を充実させて地域の活

性化につなげていきたいと考えています。その中で、先ほど課題の中でありましたように、シーニックバイウェイは、今までいろいろな活動をつなげていく中で、お客様からの認知度がこれからますます上がっていくでありましようけれども、今ここでさらに力を入れて、お客様から認められる活動になっていかなければならないと考えております。

そういう意味では、我々のルートでは、今後、お客様にいかに関係プロモーションやPRをしていくのか、ここに重点を置いてやっていかなければなりません。ある意味、地場に密着した地場の旅行エージェントという形でどんどん活動をしていかなければならないと考えているところであります。その部分と、シーニックが本来持っているすばらしい部分をうまく重ね合わせてやっていかなければならないと思っていますので、どうぞ、いろいろな部分でご指導やご支援をいただきたいと思っております。

以上、よろしくお願ひいたします。

○推進協議会（事務局） それから、ここに支援センターの代表の方がいらっしゃっておりますので、一言いただければと思っております。

○支援センター（代表） 皆様には、本当にいろいろご支援をいただきまして、何とかシーニックバイウェイ北海道全体のプロモーションといった活動をさせていただいております。認知度がまだなかなか上がらないというご指摘をたくさんいただいておりますが、それでも何年か前に比べますと、シーニックという名前だけを知っているという割合も、何年か前ですと10%に満たないようなところから今は30%ぐらいに來まして、少しずつではありますが、認知度も上がってきていると思っております。また、道路、景観ということで始まりましたが、観光や、それこそ先ほどの二地域居住を初め、さまざまな活動を地域の方々が展開していただいておりますので、そういった意味では非常に広がりも出てきたと思っております。観光庁の方の広域観光圏の方も、今年は二つが指定されました。前回は、シーニックというのは余り入っていませんでしたのでけれども、実は、両ルートとも会議のメンバーにルート代表者会議の代表が入っておりますし、弟子屈、釧路の方は、申請しているメニューのかなりの部分にシーニックの地域の活動も入れて申請させていただいているということもあります。そういう部分では、これからも皆様のご支援をいただきながら、より広域的な展開と内容の充実を図りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

○推進協議会（会長） ほかに発言したい方はいらっしゃいますか。

（「なし」と発言）

○推進協議会（事務局） 最後に、審査委員長にまとめていただければと思っております。

○審査委員長 先ほど、ヨーロッパとかアジアの話をしていただきましたけれども、僕の友達でヨーロッパと東アジアの友達を北海道に呼ぶと、おいしいと4回言うのです。まず一つは、空港に着いたら空気がおいしい、水がおいしい、野菜がおいしい、それから、目においしい。それが北海道の特徴だし、だから僕らが来るんだよと言うわけです。

それからもう一つ、国土の20%という非常に広い面積を占めているのですが、

北海道は一つじゃないよねと先ほどおっしゃいました。いろいろな魅力がたくさんあって、それぞれのおいしさがあるというのが北海道に何度も来たくなる理由だと僕の友人が言うわけですね。それを皆さんが各ルートで見つけ出したり、より磨いたり、光らせてたりされているのだらうと思います。

先ほど会長がおっしゃいましたけれども、5年たちましたから、多様なというか、いろいろなセクターの方が集まっておもしろい議論ができ始めるような舞台がやっと用意されました。今、関局長もそれをぜひ進めてほしいとおっしゃいましたけれども、これからが会長の腕の見せどころではないかと思います。会長のもとで、皆さんメンバーが自分の思いを、皆さんが切磋琢磨しながらタッグを組んでいくという、6年目に向けての気持ちが皆さんも確認されたのではないかと思います。ちょっと言い方は変ですけども、今まで結構潤沢な風とかお金が動いていたのですけれども、そうではない状況になって、それが萎えていくのではなくて、これは北海道のフロンティアといいますか、開拓魂といいますか、それが発揮される場所なのではないかと思います。ぜひ、審査委員会を代表して、皆さんのより一層の後方支援、あるいはご協力とたくさんの方の思いを重ねていくということを第2期としてスタートしていただければありがたいと思います。

以上です。

○推進協議会（会長） ほかにお願いするべき人はいらっしゃいませんか。

後ろの方で、あるいは傍聴席の方でいらっしゃったらどうぞ。発言はご自由です。

（「なし」と発言）

○推進協議会（会長） それでは、閉会にしましょうか。

それでは、皆さん、どうもご苦労さまでした。

ありがとうございました。

○推進協議会（事務局） 会長、議事の進行を大変ありがとうございました。

#### 4. 閉 会

○推進協議会（事務局） それでは、以上をもちまして、第7回シーニックバイウェイ北海道推進協議会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上